

2013年 大学入試センター試験 【講評（速報）】 英語（筆記）

■ 形式・設問数は昨年度とほぼ変わらず。長文の語数は増加傾向。難易度は昨年度並み。

問題形式は、2008年度から大きな変化はない。私大にはあまり見られなくなった発音・アクセント問題や、単語熟語の意味推測問題、図表問題やデータスキャン（必要情報だけを読み取り、他を読み飛ばす）問題などがセンター独特の傾向だが、例年どおりの出題となった。第6問も2008年度以来のパラグラフ構造に重点を置いた説明・論説文読解問題を今年も踏襲している。

難易度はほぼ昨年と同程度。平均点（昨年度は124.15点）も大きくは変わりそうにない。ただ、長文の語数がやや増えているので時間との勝負になる。一般に、センターは高3生が最初に経験する入試であることから、かなりの緊張がしいられ、そのため本来の実力が発揮できないことがよくある。それは特に時間配分の失敗という形であらわれがちだ。失敗した受験生は私大・個別試験での教訓とすべきだし、現高1・高2生は「本番の雰囲気はまた別だ」ということに留意してほしい。

■ 大問ごとの分析

【第1問】 発音・アクセント（14点 7%） _____

発音・アクセント問題は私大では激減したが、センターでは健在。発音・アクセントだけを集中的に学習するのは効率が悪い。ふだんの単語学習や長文の音読の中で、発音・アクセントを意識していれば、それだけで対応できる。「単語の末尾が -ic や -ical ならその直前にアクセントが置かれる」というルールで解ける問題も出ている。

【第2問】 文法・語法・対話文・整序英作文（41点 20.5%） _____

このパートは、センター・私大を問わず大学入試の典型的な文法系問題である。少し前のセンターは選択肢のひねり方が独特で、引っかかりやすい問題もあったが、最近の傾向は標準的な問題が多く、その意味ではふつうにきちんと勉強していれば取れる問題だ。AやCには高校入試で出ても不思議ではない問題も含まれている。Bはカギになる単語を知らないと状況把握に手間取る可能性があるので注意。

【第3問】 語意推測・発言要旨・長文内文補充（46点 23%） _____

第3問は従来からセンター英語の特徴でもあり、ここで時間を取られると後半で失敗することが多い。Aは前後から単語・熟語の意味を推測させる問題で、問題としてはセンター独特だが、英文読解の基本に関わる問題で確実に得点できる力がほしい。Bの討論内容要約、Cの長文中に文を補充する問題では、例年よりやや長くなっていてむずかしく感じたかもしれない。CのDST（夏時間）やtime zoneなどは本文中に説明があるが、常識として知っていれば楽。

【第4問】 図表・データスキャン（33点 16.5%） _____

Aは表を使った問題だが、長文としては読み取りやすく、選択肢も紛らわしくはない（「正しくないものを選び」型問題に注意）。Bは問2が少し引っかかりやすいかも。「パッケージ・プランだとばらばらに(individually)買った場合よりいくら節約になる(save)か？」という問題で、フレーム代などを計算に入れ忘れると正解が出ない。決して難しい問題ではないのだが、あわてていると必要な部分を読み飛ばす可能性がある。

【第5問】 2つの映画批評文（30点 15%） _____

これも読解問題としては難しくはないが、速読ができないと第6問の時間がなくなってしまう。subtitle「字幕」などは前後から推測できるようにしたい。場面の並べ替えは、opening scene（オープニング）→ first half（前半）→ toward the end（終わり頃）→ conclusion（結末）の順になる。

【第6問】 説明文長文読解（36点 18%） _____

昨年・一昨年は長文全体のトピックが特殊な単語(rodentやprocrastination)であったが、今年は「danceの社会的な役割」というテーマでその点ではむずかしくない。パラグラフの構造を理解した上での読解が要求されているのは例年どおり。(2)～(5)段落は、冒頭にトピックが与えられ、その後で例を挙げて説明するというパターンで論理展開が行われている。Bが全問正解できるなら、自信を持ってよい。